

育成幼稚園 4月園だより

やっぱり飛び出す

えんちょう こうち たかし
園長 高地 敬

新しい^{あた}年度^{ねんど}となり、子どもたちは少し^{すこ}心配^{しんぱい}しつつも大きな期待^{おお}を持って^{きたい}園^もで生活^{えん}を始め^{せい}ます。おうちの方々^{かたがた}も同じ^{おな}ような気持ち^きでおられるのではない^きでしょうか。おそらく誰^{だれ}でもがいつも前向き^{まえむ}と後ろ向き^{うしむ}の気持ち^きを同時^{どうじ}に持^もって生活^{せい}をしているのだ^{おも}と思います。

子どもたちは園^こではできるだけ自由^{えん}に、でも危ない時^{じゆう}は先生^{あぶ}たちが止め^{とき}たりします。子どもたちにとっては自由^{じゆう}にしている時^{とき}も危ない時^{あぶ}もみんな前向き^{とき}の気持ち^{まえむ}なのでしょう。せっかく楽しんでやっているのに、なぜ大人^{おとな}は「あぶない！」と叫^{さけ}びながら止^とめるのか、よく分^わからないのだと思います。

「とびだしくん」とか「とびだしぼうや」などと呼ば^よれる子ども^この形^{かたち}のベニヤ板^{いた}にペンキ^ぬを塗^{どうろ}ったものが道路^とわきにあ^だって、「飛び出し注意^{ちゅうい}」と書^かかれています。地域^{ちいき}によっては女^{おんな}の子^こも含^{ふく}め手^て作^{つく}りのいろいろなものが道路^{どうろ}わきから飛び出しそうになっています。自動車^{じどうしゃ}の運^{うん}転^{てん}手^{しゅ}に注意^{ちゅうい}を呼^よび掛^かけている、ということはつまり、子どもはどんなに言^い聞^きかせても道路^{どうろ}に飛び出^とすものだ、だから運^{うん}転^{てん}手^{しゅ}に注意^{ちゅうい}をするということでしょう。子どもは注意^{ちゅうい}を聞^きかないということ^こを前提^{ぜんてい}にして、大人^{おとな}は小^{ちい}さい子^こたちをさ^{はいり}まざままな配^{まも}慮^もをしながら守^{まも}ります。机^{つくえ}の角^{かど}に頭^{あたま}をぶつけないように手^てを添^そえる。子ども^この手^ての届^{とど}くところに危^{あぶ}ないものがあ^{とど}れば、届^{てんらく}かないようにする。転^{さく}落^お防止^おに柵^おを置^おく。

でも、危^き険^{けん}をすべ^さて避^こけようとすると、子ども^この自由^{じゆう}が無^なくなってしま^なうこと^なを私^{わたし}たち大人^{おとな}はよく知^{せい}っています。制限^{せいげん}しないとい^{せい}け^{げん}ないけれども、制限^{せいげん}しすぎてもだめ。だからこ^こそ子ども^こたちの自由^{じゆう}を最大^{さいだい}限^{げん}尊^{そん}重^{ちよう}する^{ゆう}ことを優先^{せん}して考^{かん}え^がる。今年^{こんねん}度も子^こどもたち^{かか}にそ^{ねが}んな関^{ねが}わりがで^{ねが}き^{ねが}ればと願^{ねが}っていま^{ねが}す。